

生活/クレジットカード/為替手数料

[Top](#) / [生活](#) / [クレジットカード](#) / [為替手数料](#)

- [VISA v. Master](#)
- [同日同店で競争](#)

カードを外貨建てで使った場合の手数料（海外決済事務取扱手数料/Foreign transaction fees）は公式では1.63%の数字が多いが、実際の数字はなぜか違う。特にVISAとMasterの差が意外と大きい「感触がある」。「感触がある」ではなく、統計的に意味のある数字を出したいが、それができるのはMoney Forwardなど限られた位置にある者だけであり、個人でできることはかなり限られる。とはいえ、何もしないのは癪なので手持ちのデータの範囲で検討してみた。

- [海外でのご利用範囲 | セゾンカードご利用ガイド | クレジットカードは永久不滅ポイントのセゾンカード](#)
- [換算レートや海外事務手数料について教えてください。 | 楽天カード：よくあるご質問](#)
- [ご利用明細のご説明 | クレジットカードの三井住友VISAカード](#)
- [外貨でのショッピングご利用代金を円貨へ換算するための事務処理手数料改定のお知らせ \(Visa・Mastercardをお持ちのお客さまへ\) | クレジットカードなら三菱UFJニコス](#)

VISA v. Master

ブランド	平均	誤差	信頼 上限	信頼 下限	標準 誤差	備 考
VISA	1.95%	±0.12	2.07%	1.83%	0.06	
Master	1.36%	±0.09	1.45%	1.27%	0.04	
	0.59%					
	¥5,918	@100万円				

- TTMにどれだけ上乗せされているか。
- 表下は、100万円分使ったときの差額。
- 信頼係数95%。

- 換算日が分かるもの（三井住友カード、JCBカード、セゾンカード）と換算日を合理的に推測できるものだけを集計。利用日を単純に換算日と仮定したものは集計に一切含めなかった。換算日の推測は、VISA/Master等のレートに各カード所定の公式手数料を乗せたレートと、カード明細記載のレートとの乖離が0または十分小さい日を換算日と推測した。十分小さい日がなく換算日を合理的に特定できなければ集計から除外。上記観測個数は、実際に最終の計算に使った取引のみの件数。除外取引を含まない。
- TTMは原則として三井住友カードなら三井住友銀行、DCカードなら三菱東京UFJ銀行を使った。ただし、三井住友銀行は台湾のTTMを公開していないなどの場合は適宜、日本の他行を使った。VISA/Master等のレートはそれ自体がTTMより悪いので、基準はあくまでもTTMとした。
- DCカードのMasterは持っているがVISAは持っていない。DCカードは手数料が上がってからは海外のショッピングで使うのをほぼ止めた。（キャッシングにはDCカードを専ら使っている。）Cf. [外貨でのショッピングご利用代金を円貨へ換算するための事務処理手数料改定のお知らせ \(Visa・Mastercardをお持ちのお客さまへ\) | クレジットカードなら三菱UFJニコス](#)
 - もっとも、最近のデータを見ていて気付いたのだが、DCカードは公式の手数料率より実際の料率はかなり低いようだ。しかし、為替リスクが大きい傾向もある（実際の換算日（推測）が利用日からかなり離れている）ので痛し痒しだ。一概に有利なカードとは言えないようだ。

- 実際は発行会社その他の要因も影響しているようだが、分析するにはサンプルの多様性が全然足りない。
- この表は原本からリアルタイム更新なのでたまに実験中の異常値が表示されることもある。

- 三井住友カード、JCBカード、セゾンカードは換算日（三井住友カードが何日のレートを使ったか）が明細に表示されるのでデータを分析する上で重宝している。換算日が営業日でない場合、実際に適用されているのは翌営業日のレートみたいだ。（私個人のデータしかないのでもサンプルサイズが圧倒的に不足するのだが。）MasterやVISAのウェブでは営業日以外の換算レートも見られるけど、そのレートはTTMより上乗せがあるので、カードの実質手数料を比較する上でよい基準とは言えない。
- 換算日が書いてないカードでも推測は立つ。VISAまたはMasterのレートから実質手数料を計算して1.67%（あるいは各カードによる公式値）が一番近い日が換算日だろう。

同日同店で競争

もう一つ、比較方法がある。同じ時刻に同じ店で複数のカードを使って相対評価する方式を試した。米国amazonでギフトカードをチャージして試している。これなら観測個数を増やすのが簡単だ。

- 上記、TTMと比べる方式には問題もある。いつのTTMと比べるかだ。「換算日」は一つの基準になるが「換算日」が非公開のカードの方が多だろう。また換算日のTTMが休業日で取得できないことも少なくない。そもそも、比較する日が利用日から離れば離れるほど、為替変動のリスクが大きくなる。（ちなみに、手持ちのデータの範囲では、換算日の出ないカードは利用日と（非公開の）換算日の乖離が大きいと推測できる傾向があった。ただし、観測個数が少なく、仮説の域を出ない。）では利用日のTTMで比べたらどうか。それなら為替変動リスクを排除できる。もちろん、利用日のTTMが手に入らないこともあるし、どの銀行のTTMを使うか、その他の課題はある。しかしそれは決めの問題であり致命的ではない。問題は、何かからの絶対評価と、相対評価（ただし同じ時刻に同じ店で複数のカードを使うという特殊な条件を満たす必要がある）と、いずれが納得感があるかだ。
- ちなみに、実験開始当初は間隔を空けずに連続的に複数のカードを使ったが、8順目でカードブランド（Master）から承認拒否された。拒否したのはamazonや日本のカード会社ではない。カード会社に自分から電話して照会したら、カード会社側にはデータが来ておらず、従って拒否もしていないし、何も情報がない、とのことだった。Masterのカード（発行会社は違う）だけ拒否されたので、Master側（段階というべきか）の拒否判定だと推測できる。Masterが拒否するとカード発行会社にも情報が（少なくとも利用日前後の時点では）行かないようだ。（一定期間でまとめて報告されることはあるかも。）

現時点の観測範囲では次のような結果になる。これは適宜更新する。とりあえず、ANA MasterとANA VISA Suicaの比較では、VISAの方が手数料が高いと言える。どちらも三井住友カードだ。JCBの数字は誤差がまだ大きめであり、何とも言えない。

	相対		TTM比		観測個数
ANA Master	0.00%	±0.00	1.39%	±0.17	7
JAL DC Master	-0.25%	±0.64	1.41%	±0.81	7
ANA VISA Suica	0.24%	±0.16	1.71%	±0.15	7
ANA PASMO JCB	-0.02%	±0.35	1.57%	±0.08	5

右は従来のTTMとの比率（いわば絶対評価）。左はANA Masterとの相対評価。各カードの請求書記載の「換算レート」（これは必ず載っている）を比較している。

- 見ての通り、JAL DC Masterの誤差が非常に大きく、統計的に意味がない。（その結果、JAL DC Masterを加えて「Master, VISA, JCB」という比較をすると統計的に意味がなくなってしまう。）JAL DC Masterの誤差が大きいのは、換算日（これは非公開）が利用日から（大きめに）離れているか、（そもそも）一定しないか、その両方か、いずれかだと推測する。ANA Masterとブランドは同じであるから、換算日が同じであればレートも同じになるはずだが、この通り全然同じにならない。
- JAL DC Masterの分散を人為的に小さくすることもできそうな感じ。利用日と換算日（早ければ翌日）が、日本と米国いずれの休日にもかからないように利用すればよい。しかし、実際の買い物行動とは離れてしまう。ここではそういう操作はしていない。

Last-modified: 2018-05-12 (土) 00:13:06 (12h)

Site admin: admin@6pb.info

PukiWiki 1.5.1 © 2001-2016 [PukiWiki Development Team](#). Powered by PHP 7.0.30. HTML convert time: 0.041 sec.